

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
(PCT 36 条及び PCT 規則 70)

REC'D 03 NOV 2005

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 P04-116	今後の手続きについては、様式 PCT/ IPEA/ 416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/016359	国際出願日 (日. 月. 年) 28. 10. 2004	優先日 (日. 月. 年) 30. 10. 2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ C09K11/78, 11/00, 11/08, 11/80, 11/82, H05B33/14 // C23C14/08		
出願人 (氏名又は名称) 独立行政法人科学技術振興機構		

- この報告書は、PCT 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT 36 条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
 - ☐ 附属書類は全部で ページである。
 - ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70. 16 及び実施細則第 607 号参照)
 - ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
 - ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。
(実施細則第 802 号参照)
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
 - ☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
 - ☐ 第 II 欄 優先権
 - ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 - ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
 - ☒ 第 V 欄 PCT 35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
 - ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
 - ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 30. 08. 2005	国際予備審査報告を作成した日 24. 10. 2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 近藤 政克	4 V 3344
電話番号 03-3581-1101 内線		3483

様式 PCT/ IPEA/ 409 (表紙) (2005 年 4 月)

BEST AVAILABLE COPY

第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に回答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-24	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	2, 3	有
	請求の範囲	1, 4-24	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-24	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

〈請求の範囲 1, 4～13〉

引用例1には、 ABO_3 組成 (A=Ia族、IIa族、又はY, La等の希土類を含むIIb族元素、B=VIb-IIbの遷移金属、又はAl等のIIIa族元素) のペロブスカイト型化合物を主成分とする発光材料において、前記元素A及びBが他の元素A及びBと0.0001～2%置換された発光材料、及び、該発光材料が安定で強い発光強度を有することが記載されている(請求項1～9、【0042】)。

引用例1には、上記発光材料を電界発光材料として用いることは具体的に記載されていないものの、 ABO_3 組成からなる発光材料が電界発光材料として用いられることは周知であるので(例えば引用例2:請求項1, 2、【0023】【0034】【0035】/引用例3:請求項1、【0001】等を参照)、引用例1に記載された安定で強い発光強度を有する発光材料を、電界発光材料として採用してみることは、当業者が容易になし得ることである。

〈請求の範囲 14～24〉

本願請求の範囲14～24に規定された電界発光層及び電界発光素子に関する技術はすべて当業者にとって周知の事項であり、引用例1に記載された発光材料を電界発光材料として用いる際に、当業者が適宜行い得る事項にすぎない。

〈請求の範囲 2, 3〉

R_2CuO_4 、又は $RZ_2Cu_3O_6$ で表される酸化物は公知であるものの、ペロブスカイト型結晶構造を有する該酸化物が電界発光材料として用いられることは引用文献からは示唆されないもので、本願請求の範囲2及び3に係る発明は、新規性、進歩性を有するものである。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 Ⅴ 欄の続き

引用例 1 : J P 2002-129154 A (科学技術振興事業団) 2002.05.09

引用例 2 : J P 5-132668 A (化成オプトニクス株式会社) 1993.05.28

引用例 3 : J P 2000-236112 A (シーメンス アクチエンゲゼルシャフト) 2000.08.29

引用例 1～3 は、国際調査報告に記載されたものである。